

# りそなーれ

9

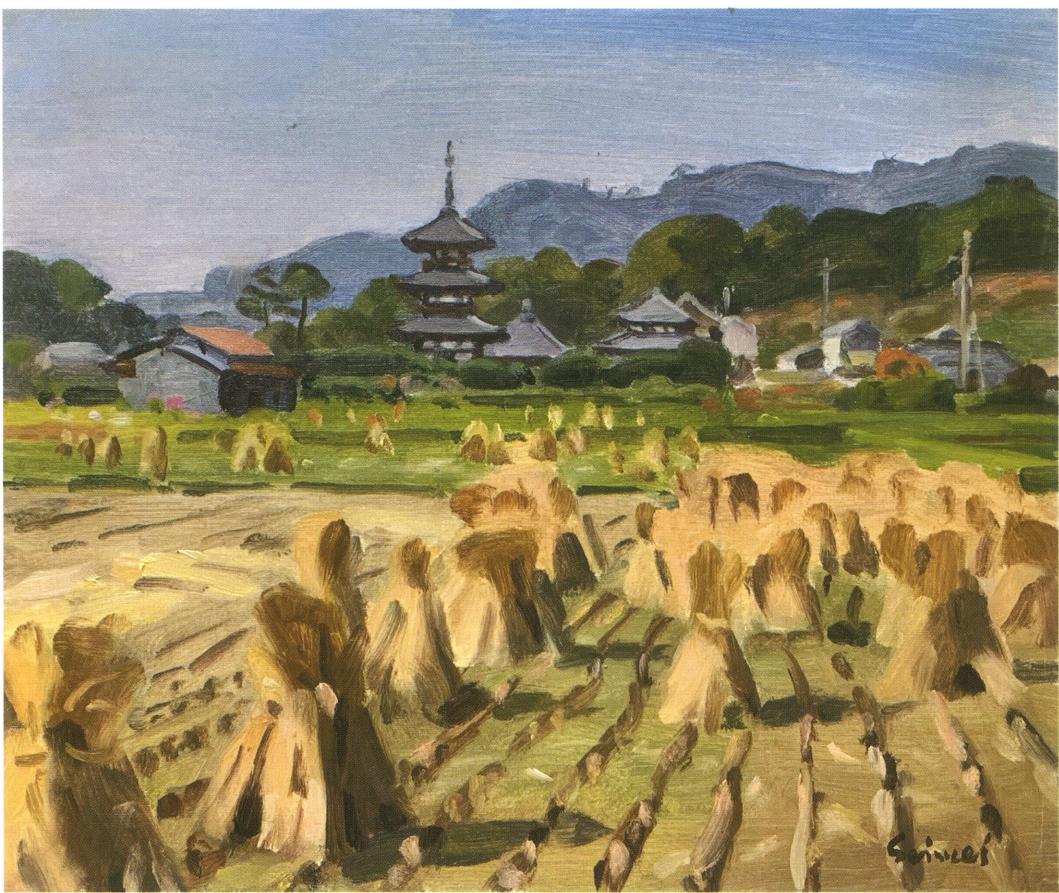
2021  
September

特集

## 循環型経済のインパクトと中小企業

経営戦略としてのサーキュラー・エコノミー

サーキュラー・エコノミー時代に求められる中小企業のビジネス戦略



### TOPの決断

トモエ乳業株式会社 **中田俊之氏**

「『酪農乳業文化の拡大』ということで、牛乳博物館をこの10年以内に独立させ、できれば酪農牛乳のテーマパークをつくる」

### 講演録

(株)ライプニッツ代表／独立研究者／著作家／パブリックスピーカー **山口 周**

「かつては解決策が価値の源泉でしたが、今ではありたい姿を描いて問題をつくるかどうかが、多くの領域で価値の源泉になっています」



# 「魔法瓶」のような断熱構造の環境配慮型建築物

## 伊田テクノス株式会社

官公庁の土木・建築工事を始め、地盤改良や民間建築、一般住宅まで幅広い分野を手がける伊田テクノスは、埼玉でトップクラスの実力を誇る総合建設企業。同社は現在、独自の内外W断熱工法による断熱性に大変優れた共同住宅の建設に力を注いでいる。

埼玉・東松山に本社を置く伊田テクノス(株)は、1910年(明治43)創業の老舗、ゼネコンだ。地元、埼玉を中心に関東エリアを主なテリトリーとし、土木工事・建築工事・地盤改良・住宅工事を4本柱に事業を展開する。

同社は埼玉県の建築・土木工事事業者の格付けで最高ランク「丸A」評価を受けており、工事表彰も多数受賞。2019年(令和元)8月発売の「週刊ダイヤモンド」誌の建設業全国2090社ランキングでも、埼玉県内1位、全国14位に輝いた実力ある企業だ。

加えて同社は、実業団の剣道大会で何度も優勝経験をもつ、剣道の強豪としても知られる。

**土木から始まり、  
公共建築、地盤改良、住宅と、  
工事の幅を広げる**



2019年全日本实业団女子・高壮年剣道大会優勝。剣道での知名度は人材採用にもつながっている

「今年の関東実業団剣道大会では女子チームが優勝を飾りました。男子チームも関東大会では3度優勝。全日本実業団剣道大会では女子チームが1回優

勝、男子チームは2回準優勝経験があります」(檜崎亘社長)

社員には剣道家が多く、伊田登喜三郎会長も檜崎社長も剣道有段者。剣道で培った質実剛健な精神が仕事に反映されているのも同社の強みの一つである。

1910年、創業者である伊田勘三郎氏が土木工事請負業として事業を興す。当初は、荒川や入間川水系等の河川改修工事を主に手がけていたという。同社は1946年(昭和21)に株式会社化すると、60~70年代にかけて県内各地に営業所や工場、建材センターを開設して業務を拡大。83年には土木工事で培った技術力と実績を携えて建築工事部門を新設し、公共工事を請け負っていった。そして90年代後半には地盤改良工事分野へも進出を果たす。

「バブル崩壊後の厳しい時代に、土木の技術を生かした新事業ができるのか」ということで、地盤改良部門をスタートさせました」

2003年(平成15)には、同社独自の小口径鋼管杭工法「ISGパイプ工法」の建築技術性能証明を取得。これは鉄鋼製の杭先端部



代表取締役社長  
檜崎亘氏

\*1 ZEH(ゼッチ)=Net Zero Energy House(ネット・ゼロ・エネルギー・ハウス)。断熱性能の向上と省エネ設備等の導入、再生可能エネルギーにより、年間の一次エネルギー消費量を正味ゼロにすることを目指した住宅



品と炭素鋼管で構成される杭を回転貫入して基礎下部に配置する工法で、掘削力や支持力に優れているのが特長だという。さらに湿式柱状改良工法である「セミ・パイアル工法」等の技術も確立し、同部門では商圈を関東のみならず東海エリアにも広げていった。

また地盤改良と同時期には、一般住宅事業にも着手。立ち上げ当

初はハイグレードの注文住宅のみを手がけていたが、現在では平屋ブランド「HiRAKURA(ひらくら)」や、ローコスト住宅ブランド「ハッピー住宅」、リフォームサービス「伊田リフォーム」なども展開し、多種多様なニーズに応えられるようになっている。

## 「快適生活」を実現する 独自の内外W断熱工法

同社が建築工事部門で6年ほど前

から導入しているのが、独自の内外W断熱「SAM工法(Super Amenity Method=超快適工法)」。2枚のポリエチレン板(発泡スチロール)と高密度

ポリエチレン(プラスチック板)を結合

したユニットを、断熱材を兼ねた残置型枠材として使用する、鉄筋コンクリート壁式構造の建築工法だ。

「もともとカナダにあった工法を会長が見つけて、自社で研究して取り入れました。ここ10年で当社の建築部門は公共工事から民間にシフトしており、今一番力を入れているのがこの工法です」

SAM工法の特長は「超断熱」「快適性」「遮音性」「経済性」「安全性」の五つ。特に高気密による超断熱効果が売りで、檜崎社長曰く、「まるで魔法瓶」。冷暖房をそれほど使用せずに四季を通じて室内の温度が一定に保たれるという。

また、型枠を構造物の一部として解体工事が不要なため、作業工程が大幅に省力化でき、工期短縮や建設費のコストダウンに貢献するのも大きな魅力だ(建築コスト同社比20%削減)。

「実際、ある会社の寮をつくる案件では、住居棟と食堂、当初は全体を鉄骨造りにする予定でしたが、住居棟

は商圏を関東のみならず東海エリアにも広げていった。

また地盤改良と同時期には、一般住宅事業にも着手。立ち上げ当初はハイグレードの注文住宅のみを手がけていたが、現在では平屋ブランド「HiRAKURA(ひらくら)」や、ローコスト住宅ブランド「ハッピー住宅」、リフォームサービス「伊田リフォーム」なども展開し、多種多様なニーズに応えられるようになっている。



SAM工法で建てた社員寮。コンクリートの両面を断熱材でサンドした厚い壁の構造により、断熱性だけでなく、遮音性や耐震性、耐火性、耐久性にも優れている

## ZEHデベロッパーとして 取り組みを推進していく

同社は今年6月、ZEHデベロッパーに登録された。SAM工法による高気密・高断熱な省エネ仕様の建物がZEH基準をクリアした形だ。2015年には太陽光発電事業に着手するなど事業もスタート。今後はZEH・M基準を満たす共同住宅を積極的に手がけていく予定だという。

「SAM工法をベースに、ZEH・Mを標準仕様とした共同住宅の商品化を目指していくつもりです」

をこの工法に変更したことでの、約1億円建設コストを下げられ、お客様に大変喜んでいただけました」

導入開始から6年。今では高齢者施設やクリニック、保育所、企業や大学の寮等に採用されている。

SDGsへの取り組みやエシカル消費が社会全体で重要視されている今、自社商品に「環境配慮型」の価値が加わることは、もちろんブランド力強化につながるはずだ。また新規事業として、オフィスビルやマンションの中古物件を買取り、大規模な改修をして再販するリノベーション事業を今年7月に開始した。

「5本目の柱になればと考えています。今後も本業から外れない、建設業に関わりのある分野に事業を展開していく予定で、当社のバツクボーンである『報徳思想』にのっとって、地域社会への貢献をとおして自社の発展と社員の幸福を目指していきたいです」

- 社長 檜崎亘氏
- 創業 1910年(明治43)3月
- 設立 1946年(昭和21)3月
- 従業員数 201名
- 資本金 100百万円
- 事業内容 総合建設業
- 所在地 〒355-0014 埼玉県東松山市松本町2-1-1 TEL 0493-22-1170 FAX 0493-24-6306 URL <https://www.idatechnos.co.jp>
- 取引店 埼玉りそな銀行東松山支店